

日頃、組合員・利用者の皆様には格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

さてこの度、2015年度の事業内容や経営内容などをご説明した「ディスクロージャー誌」を発刊いたしました。ぜひご一読いただきたくお願いいたします。

2015年度の日本経済は、一時は緩やかな回復基調にありましたが、1月末の日銀のマイナス金利政策導入以降、株価の急落や円高等により、景気回復に向けた動きは強弱入り混じる足踏み状態となり、不安定な一年となりました。

農業を取り巻く環境では、農協法改正が国会で決議され、農業者の所得向上を基本とした「農協改革」の取り組みが課せられました。これに対して、JAはだのでは「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」に向けた具体策を検討し、全力で自己改革に取り組むことを決めました。また、TPPの大筋合意は、日本の農業にとって大きな不安を与えることとなり、JAグループで運動してきた国会決議を順守するよう引き続き粘り強く運動を展開していく必要があります。

JAはだのでは、このような厳しい情勢の変化とこれまでの実践課題を踏まえ、協同組合運動の躍進に向けて、2015年度の事業活動実践に取り組みました。

組織運営では、女性や農業後継者等の正組合員加入を促進し、組織の基盤強化をはかりました。また、組合員基礎組織の活性化や組合員と地域住民の絆をより深めるために支所支店を拠点とした協同活動の実践にむけて検討を行いました。

営農指導事業では、「第二次地域農業振興計画」の目標達成を加速化するために、「JAはだの営農経済改革」を策定しました。また、地域の特性を生かした品目の生産振興と産地づくり、観光農業のさらなる充実拡大、鳥獣被害対策等「はだの都市農業支援センター」と連携して農業者の営農意欲喚起と支援機能の発揮につとめました。

販売事業では「はだのじばさんず」を地産地消の取り組みの拠点として、出荷者とともに消費者への情報発信と、旬を意識したイベントを実施して利用拡大につとめ、新鮮で安全安心な地場産農畜産物及び農産加工品の品揃えの充実と供給拡大をすすめました。

経営管理では、役員執行体制や営農経済部門強化に向けた人員配置を含む「農協改革」の取り組みなどを明確化した第四次中期経営計画を策定しました。また、組合員利用者の信頼性維持向上を目的に、不祥事未然防止に向けてコンプライアンス態勢の強化と、事務堅確性向上に取り組みました。

JAはだのでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、さらなる地域農業振興と豊かで暮らしやすい地域社会づくりに取り組んでまいります。

皆様の一層の参加、参画および利用結集をお願い申し上げます。

秦野市農業協同組合

代表理事組合長 山口政雄